

# BYD ウィルスによるあひるの産卵低下症候群について

(テンブスウイルスとの塩基配列の相同意は高いと見られる (99.6%) が、同一のウィルスと確定されていない。)

## 1 概要

2010年4月以降、中国においてあひるの食欲低下及び著名な産卵率低下を主徴とする疾患が蔓延。本疾患の病原体を新たなフラビウイルスと同定し、BYD ウィルス (*Baiyangdian Virus* : 最初にウイルスが分離された河北省白洋淀 (Baiyangdian) から: 文献参照) と命名 (2011年3月)。

## 2 感受性動物

あひる (肉用種及び卵用種ともに発生)

(2011年4月6日現在、あひる以外の鶏等での報告はない)

## 3 臨床所見

- ・急激な食欲不振及び産卵率の低下 (感染農場では産卵率が10日間で10%程に低下)
- ・緑色下痢便も頻繁に観察
- ・歩様異常
- ・死亡率5~15%

## 4 組織解剖検査所見

- ・卵巣の出血、炎症、退縮
- ・卵管閉鎖、卵胞破裂
- ・脾臓の腫脹、腹膜炎
- ・破裂した卵胞、卵巣の間質及び内臓の漿膜面に、円形または顆粒状の好酸性物質が充満
- ・ときに脳で、くも膜下にリンパ球の浸潤を伴うグリオーシス (神経膠症)

## 5 発生状況

- ・2010年4月に、中国東南部で確認。短期間で中国のあひるの主要生産地域のほぼ全域 (沿岸部及びその隣接地域) に拡大 (図参照)。
- 感染が確認されている地域は北京市、河北省、山東省、江蘇省、安徽省、上海市、浙江省、江西省、福建省、江東省、香港、澳門、広西チワン族自治区。
- ・他国での発生状況は不明

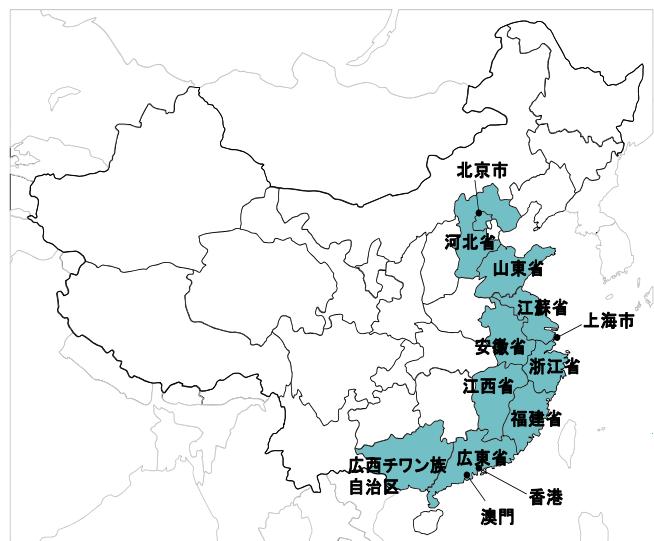


図 中国における発生地域  
(文献参照)

## 6 診断法

- ・PCRによる遺伝子診断 (文献はプライマー配列を公表)
- ・ウイルス分離 (初代あひる胚纖維芽細胞及びベロ細胞を使用)

## 7 参考文献

PLoS One. 2011 Mar 24;6(3):e18106, Jingliang Su ら.

「Duck Egg-Drop Syndrome Caused by BYD Virus, a New Tembusu-Related Flavivirus.」